

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL.8 NO.5

(通巻 34号)

昭和57年2月8日発行

編集・発行人 高橋 在久

〒 260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎ 0472-42-8311 (代表)

梅原龍三郎

「北京秋天」▶

「姑娘」▼



親潮台

遠・高・狭とは最近の公団住宅が都心よりだんだん遠くなり、家賃も高く、そのうえ狭隘であることをやゆした言葉らしい。

県立美術館は、今のところバスの便が、よくないので、ときおり来館者の方から駅から遠いすねなどといわれることがあるが、距離的にそんなに遠いわけではない。特別展を除いては無料となっているので高くはないし、建物面積は約八、九〇〇平方メートルもあつて全国の公立美術館の中では上位に入っている。ところで今回の「浅井忠と京都洋画壇の人々」の後半の一月からは、梅原龍三郎画伯の「北京秋天」と「姑娘」が加わって話題をよび予想した以上の来館者を迎えることができ企画した者の一人としてこんな嬉しいことはない。加えて、最終日の十七日に、四十九年十月開館以来の入館者数が百万人目を記録することができた。これまた感慨一入であり、いっそう心して県民に愛される美術館づくりにつとめたい。

(安増 順)

特別展 浅井忠と

京都洋画壇の人々を終えて



導者として多くの後進を育てた業績を見直そうとしたものであった。

出品作家は、浅井忠の他、浅井とともに京都洋画の基礎を築いた田村宗立、鹿子木孟郎、伊藤快彦ら七名とその下で学んだ加藤源之助、長谷川良雄、寺松国太郎、安井曾太郎ら二十二名で、資料コーナーも含めて約百八十点が一堂に展覧された。京都高等工芸学校や関西美術院に学んだ人々の当時のデッサンや水彩画は、ほとんどが未発表のものであり、浅井忠を知る上でも興味深い展覧会となった。

特別展「浅井忠と京都洋画壇の人々」は、昨年十二月五日(土)から今年一月十七日(日)にかけての約一カ月間開催され、このたび無事終了することができた。本展では、かつて盗難にあり、九年ぶりに発見された梅原龍三郎の「北京秋天」と「姑娘」が展示されたことも話題を集め、入館者数は一〇、〇〇〇人を越した。

今回の展覧会は、浅井忠が京都ですごした晩年の五年間に焦点をあて、京都高等工芸学校や聖護院洋画研究所、関西美術院において、優れた指

導者として多くの後進を育てた業績を見直そうとしたものであった。

昭和五十七年の新春を飾る企画展として、一月二十九日(金)から二月十一日(木)まで文化庁と本館の主催により、第十五回現代美術選抜展を開催している。

文化庁では、各美術団体が中央において実施している美術展覧会の受賞作品を一堂に集め、現代美術の動向を広く一般に紹介することによって美術の振興に寄与する目的で毎年その巡回展を行なっている。今回、幸いにも本館において、これら現代美術秀作を展覧し、県民の皆様が鑑賞していただける運びとなった。

第十五回展を迎えた現代美術選抜展は、昭和五十五年後半から五十六年前半に開催された美術公募団体展のうち十五団体から推薦された受賞作品を中心に、その他招待出品としてそれらの団体展での総理大臣賞・文部大臣賞受賞作品を、また別に特別出品として昭和五十五年文化庁買上げ優秀美術作品をあわせ、七

第15回

現代美術選抜展

十七点の日本画・洋画・版画・彫刻を集めている。

この展覧会を通して、多様化する現代美術の動向をご理解いただければ幸いである。なお、本県関係の出品作家は次の6氏である。

高畑郁子(日本画)「慈界」
第七回創画会展創画会賞
昭和四年酒々井町生まれ。
豊橋市立高等女学校卒。創画会賞、女流画家協会賞などを

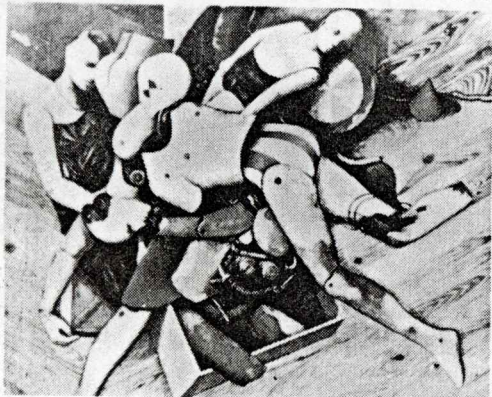
受賞。豊橋市住。

渡辺学(日本画)「白い海(屏風ヶ浦)」第七回創画会展(文化庁買上) 大正五年銚子市生まれ。東京美術学校卒。新制作新作家賞、現代日本美術展優秀賞などを受賞。銚子市住。

鶴田喜美(洋画)「陽だまり」第二十六回一陽会展待賞 昭和十三年奈良県生まれ。大阪樟蔭女子大学卒。新協美術会等で活躍。千葉市住。細川尚(洋画)「私をみつめて」第二十六回一陽会展青麦賞 昭和十九年北海道生まれ。一陽会展待賞、青麦賞などを受賞。木更津市住。

石井武夫「DUMMY(A)」

石井武夫(洋画)「DUMMY(A)」第四十八回独立美術協会展独立賞 昭和十五年茂原市生まれ。東京教育大学卒。独立展小林賞、野口賞、独立賞、安井展佳作賞などを受賞。松江市住。伊東繁特(版画)「哥」十六 第五十七回春陽会展展研究賞 昭和二十三年静岡県生まれ。東京造形大学卒。浜松市美術館版画大賞、アカデミー・デ・ボザール賞、フィガロ賞特別賞、日仏現代美術展佳作賞などを受賞。松江市住。



常設収蔵作品展を一月二十
二日(金)から再開した。

本展の方向としては、千葉
ゆかりの作家及び千葉を題材
にした作品の紹介、日本近代
洋画の先覚者浅井忠とその周
辺作家の作品の紹介、新収蔵
作品の紹介、基金で購入した
作品等話題の作品を紹介する
特別展示のコーナー、作品の

昭和56年度

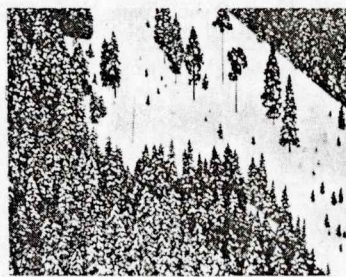
後期収蔵作品展

他、作家の文献資料等を紹介
する資料コーナーといった、
いくつかの観点にたつて、本
館収蔵作品を展示していこう
とするものである。

一月二十二日から展示して
いる主な作品は次の通り。

◎千葉ゆかりの作家及び千葉
を題材にした作品として―

●日本画 東山魁夷「春雪」



東山魁夷「春雪」

加倉井和夫「穀機」 吉岡堅二
「馬」 若木山「海女」 富取風
堂「群魚」 渡辺学「夜明け」
小野具定「遠くなつた海」 高
畑郁子「メステイソンの女達」
松尾敏男「原野」 他。

●版画 瑛九「家族」 浜口陽
三「ピーマンのある静物」 深
沢幸雄「遺伝(流れ)」 他。

●工芸 香取秀真「鳳凰文様
花瓶」 津田信夫「鳳翔薫炉」
香取正彦「朧銀玉錯花瓶」 鈴
木治平「条紋金彩花瓶」 宮之
原謙「象嵌磁鉢」 土肥刀泉
「釉彩両耳花瓶」 他。

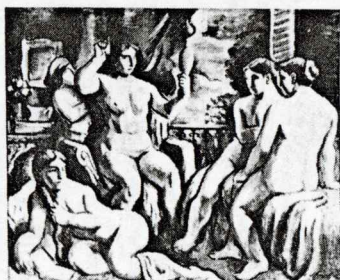
●彫塑 鈴木啓子「Feeling
69」 郡司和男「詩人の肖像」
綿引司郎「遙」 鈴木実「存在
する私」。

◎浅井忠とその周辺作家の作
品として―浅井忠「農婦」 石

井柏亭「信州風景」 黒田重太
郎「浴後」 霜鳥之彦「ロシア
の女」 他。

◎昭和五十五年度から昭和五
十六年度にかけて本館に収蔵
された作品―小堀進「逆光」
鶴田吾郎「谷川岳」 熊谷文利
「薬を飲む祈禱師」 笹岡了一
「放蕩息子」 池田良二
「Scattered Seeds」 他。
◎特別展示コーナー 梅原龍三
郎「北京秋天」 「姑娘」。
◎資料コーナー 浅井忠年譜
他。

広く収蔵作品を公開し、ま
た新収蔵作品等をはやく紹介
するため、今後随時展示替え
を行なつていく予定である。
なお、この常設展は、企画
展、特別展開催期間をのぞき
年間を通して展示する。



黒田重太郎「浴後」

新収蔵作品紹介(V)



池田良二「Nobody knows my mind.」

購入

池田良二
Nobody Knows my mind 1981
Martin 1979
Scattered Seeds 1979
Lack 1980
Tristeza 1980

昨年の四月から五月にかけ
て、東京都美術館で開かれた
第十五回現代日本美術展に、
初めて千葉県立美術館賞を設
定した。その受賞作品がこの
「Nobody knows my mind」で
ある。

池田は、一九四七年に北海
道根室に生れた。武蔵野美術

大学実技専修科研究課程修了
後、しばらく油絵を描いてい
たが、七五年に至つて銅版画
を独修することになる。深沢
幸雄氏にも教えを受け、氏の
手作りの道具をいくつかもら
い受け、今でも大切に使用
している。七七年から多くの展
覧会に次々と出品するようにな
り、七九年の第十四回現代日
本美術展で京都国立近代美術
館賞、八〇年のサンシャイン
版画種別グランプリ・銅版画
部門展で大賞を受賞している。
池田の銅版画の魅力は、和
紙(これは池田の特注品だそ
うである。)の薄茶色と、フォ
ト・エッチング、アクアチン
ト、ドライポイント、メゾチ
ントなど多種の技法を併用し
た黒いインクの色との調和が
生み出す情感にあり、それを
ささえているものは、銅の板
と和紙に残された池田の手の
ぬくもりには違いない。
昨年の秋から一年間、文化
庁派遣の在外研修芸術家とし
て、いまロンドンに居る。
なお 併せて作者の「Vara-
ness」他二点が本館に寄贈さ
れた。

トピックス

受難の名画、本館へ寄託！



知事、特別展を観覧(左端)

七日に九年半ぶりに吉井画廊に戻った受難の流転の名画です。

一月五日、開催中の特別展「浅井忠と京都洋画壇の人々」に特別出品された二点は、ガラスケースに入り、たえず警備員が監視するなど、二度と災難にあわぬよう万全のそなえがされております。

梅原龍三郎「北京秋天」「姑娘」を特別展に追加展示

すでに新聞等でご存じかと思いますが、盗難後約十年ぶりに発見された梅原龍三郎「北京秋天」「姑娘」(表紙参照)の二点が所有者吉井長三氏(吉井画廊社長)および仲介者村上睦郎氏(千葉県議会議員)のご好意により、発見後初めて本館で一般公開されました。この二点の作品は昭和四十七年五月に東京・銀座の吉井画廊(吉井長三社長)で開催の「梅原龍三郎北京展」会場(五月二十九日から三十日)にかけて盗まれ、去る十二月十

れた結果です。

なお、二点の作品は、吉井社長のご好意により、特別展終了後も一年間本館に寄託され、常設展にも展示・公開される予定です。

知事も特別展を観覧

特別展「浅井忠と京都洋画壇の人々」は、この名画が追加出品されたため大変な評判で、初公開翌日の一月六日には沼田県知事も特別展を観覧されました。

「入館者百万人を突破」

本館は昭和四十九年十月の開館以来、入館者数も展覧会の充実とともに着実に増え続けており、五十一年十一月六日には二十万人目の入館者を迎え、五十三年十二月十七日に五十万人目、五十四年十月十一日には六〇万人目の入館者をそれぞれ迎えました。



100万人目の入館者
川口重夫さん(左)

特別展「浅井忠と京都洋画壇の人々」最終日の一月十七日

ついに百万人目の入館者を迎えました。この方は八日市場市の川口重夫さんで、館から記念品が贈呈されました。

川口さんは「こんなに立派な美術館が千葉にできていることは素晴らしいことです。展覧会のたびに来っていますが、百万人目にちようどあたったことは大変光栄です。これからもよい作品をみせていただきたい。」と語っておりました。

「好評だった特別展解説ボランティア」

前号でもお伝えしましたが、解説ボランティアの皆様方の活躍は目ざましく、特別展「浅井忠と京都洋画壇の人々」でも会期中、水曜・日曜・祭日の十時三〇分から二時三〇分まで会場にて作品解説を行ない、大変好評でした。

伝言板

◎美術館友の会では、会員を募集しています。ふるってご入会ください。

●入会金 五〇〇円(新規のみ)

●年会費 一五〇円

詳細は美術館内友の会事務局へお問い合わせください。

談話コーナー

悲しみのDUMMY

小・六 河内奈津子

「DUMMY」というのは、機械人間、つまりサイボーグのことだそう。私は、その作品のどこにひかれたのかと不思議に思うことがある。作者の石井武夫さんがどんなきっかけで、どんな気持ちで書いたのかも知りたい。

「DUMMY」の捨てられた悲しみが、私の胸に伝わってくるのがわかる。「DUMMY」はおなかの中がこれ、おたがいに重なり合い、悲しみを話し合っているようにも見えた。そんな「DUMMY」の悲しみを伝えるために、あんな大きなキャンバスに、作者の石井武夫さんは、苦労や工夫を重ねて、表現するのに大変だったろう。そんな作者の気持ちも見学し終ってから、しみじみと感じてきた。「DUMMY」は自分が、もう動けないのを知り、なみだも流せずに深く傷つき、悲しみにしずんでいたであろう。(中略)「DUMMY」は、私の心に一生残る印象深い作品だ。

美の泉 ヨロツパ美術館めぐり

マドリッドといえど誰しも即座に頭に浮かぶのは、グレコ、ベラスケス、ゴヤの名作を数多く展示している有名なプラド美術館であろう。もちろん今回の旅行の中では感銘の深い美術館の一つであった。

それにもまして脳裏に焼きついて離れたいものがトレドの「サン・トメ教会」の大壁面に掲げられているエル・グレコの傑作中の傑作といわれる「オルガス伯の埋葬」であった。

トレドはマドリッドの南方約八十キロメートルにあり人口は約五万弱の古都で一五六一年首都がマドリッドに移されるまでレコンキスタの中心都市であった。

海拔五二九メートルの丘の東西南の三方をタホ河の深い谷がとり囲み天然の要害を形成している。市内にはサンタ・クルス美術館をはじめ「グレコの家」そして大聖堂が立ちならび街全体

が中世の大きな美術館といった方がぴったりする街である。エル・グレコ(一五〇一―一六四四)は本名 Domeニコ Teotocopulos という

ギリシヤ人で、エル・グレコというのは「ギリシヤ人」という意味のスペイン語である。ギリシヤのクレタ島で生れ、ヴェネツィアに十年滞在し、後半生をスペインで過した巨匠であるがどういいうわけか彼の作品は宮廷の好みに合わなかった。しかし、彼の神秘的、精神主



「オルガス伯の埋葬」(部分)

上半分は雲の上の伯爵で魂がマリヤとキリストに捧げられている。この見事な構成、色彩、テクニクは、まさにマニエリスム芸術の代表作というにふさわしい。(安増 順)

義的な表現は、混沌とした世紀末の世相にあつて深い宗教的な雰囲気のみちていたトレドの街の教会や修道院に受け入れられた。

この絵は一五八三年この教会の司祭の依頼により制作したもので、絵は上下二つの部分で構成され、下半分は甲冑姿の伯爵が、奇跡的に降りた聖アウグスチン、聖エステファノの手で埋葬されるところを描く構図になっている。

左端の手伝い人にはグレコの息子を配し、見守る人々は当時のトレドの有名人やグレコの友人達であるといわれている。

来館者

3	6	7	8	10	14	17	19	28	12月	6	13	17	18	19	1月	5	6	8
大須賀力氏、県教育次 長県展を観覧	東京都社会教育部学芸 員九名、八日市場市教 育委員会二名	五十嵐幹氏	積田鑑士氏、埼玉大学 博物館実習生二十八名 新井重三氏	富山県立近代美術館椿 秀年氏	長谷川昂氏	三橋英作氏	鳩川誠一氏	霊園鴻甫氏	根岸茂行氏 杉本秀太郎氏	県企画部企画課久保木 伸治氏	神奈川県立近代美術館 足立朗氏	高橋規矩治郎氏	NHK、サンケイ新聞、 浅見錦龍氏	県知事、特別展を観覧、 県立総南博物館長	県文化課長、美術館資 料審査委員三名			

日誌抄

11月	3日	7日	8日	14日	16日	17日	24日	28日	12月	5日	9日	11日	13日	25日	1月	8日
県展授賞式	県展解説会（日本画）	県展解説会（洋画）	七宝焼入門講座はじまる（十五日まで）	県展反省会	陶芸入門講座	友の会理事會	てん刻入門講座を開催	特別展「浅井忠と京都洋画壇の人々」始まる	記者懇談会開く	県博協役員会	研究員會議	講演会「京都時代の浅井忠」（杉本秀太郎）	展示利用調整會議	資料審査委員會		



浅井 忠自作印
(原 寸)